



# とよしん 海外貿易投資ニュース



第91号

発行日: 2018.12.17

## ホンダの二輪車新工場が稼働(バングラデシュ)

バングラデシュで二輪車の生産・販売を手掛けるホンダの現地法人バングラデシュホンダは11月11日、ダッカ中心部から約50キロ南のムンシゴンジ県アブドルモネム経済特区(AMEZ)で新工場の竣工(しゅんこう)式を行った。約10万平方メートルの土地に、第1フェーズとして建屋面積1万7,000平方メートルの工場を建設した。投資額は約23億タカ(約32億2,000万円、1タカ=約1.4円)だ。

同社はバングラデシュ工業省傘下のバングラデシュ・スチール・エンジニアリング(BSEC)とホンダが2012年12月に設立した合弁企業で、これまで部品を輸入して現地で組み立てるコンプリートノックダウン(CKD)方式で二輪車を生産し、バングラデシュ国内で販売していた。産業の多角化を目指すバングラデシュ政府にとって、自動車部品の現地調達も含めた本格的な生産拠点の誘致は悲願だが、自動車メーカーにとっては部品に課される高額な輸入関税が参入障壁となっていた。同社は日バ官民合同対話などを通じて政府と交渉し、2016年12月には、45%の補足税(注)を20%に引き下げることを前提に現地調達を伴う本格生産を行うことに合意した。バングラデシュは好調な経済成長を背景に、個人所得が増え二輪市場も急速に拡大している。関税の引き下げ効果もあり、二輪市場は2016年の22万3,000台から翌2017年には40万台に急増した。2018年も前年比16.3%増の46万5,000台の販売が見込まれるが、バジャー、ヒーローなどインド勢が市場の50%以上のシェアを握る。ホンダのシェアは13.0%だが、ブランド力と高品質を売りにシェアを伸ばしており、2018年は約6万台を供給する予定だ。新工場では当面160cc以下の6モデルで10万台の生産を目標としている。将来は20万台の生産を目指し、拡張投資も視野に入れている。



竣工式でのバングラデシュ政府要人とホンダの関係者ら

### <現地調達先は乏しく、インフラも脆弱>

他方、製造業の素地がないバングラデシュにおいて、ホンダに部品を供給できる地場企業はほとんどないのが現状だ。当面は、主にインドから輸入した部品の溶接および塗装のみを現地で行うことで現地調達とし、今後は簡易な樹脂成型部品の現地供給先の育成を目指す。工場を操業するためのインフラも脆弱(ぜいじゃく)だ。ホンダが入居するAMEZは、地元財閥のアブドルモネムが開発、運営するが、現状では電力や水の供給がなされておらず、自家発電など全て自社での手配に頼らざるを得ない。泉裕泰駐バングラデシュ日本大使は竣工式で「ホンダに限らず多くの日系企業が港湾などの物流や税務問題で大変な苦勞をしている」と述べ、バングラデシュ政府に対し一層の投資環境の改善を要望した。

(注)補足税とは、地場産業保護を目的に特定品目の輸入時に関税とともに徴収される税金。税率は10~500%と幅がある。

(出所:ジェットビジネス短信 2018年11月20日 55d46b1e4b98fc3e「ホンダの二輪車新工場が稼働(バングラデシュ)」)

## 和食器の人気、SNSで拡散(スペイン)

スペインでも、日本の茶器は人気だ。最近SNSによる情報発信が特に有効な宣伝ツールになっているという。ジェトロが10月17日に広島市で、19日に高松市で開催したデザイン製品商談会「Fine Design SETOUCHI」に参加した、マドリードの和食器店「アネコ(ANEKO)」の玉置さをり店舗マネジャーに聞いた。

同店は2016年末に開店し、カップや湯飲み、皿などを中心に約2,000種類、2万点とスペインでも最大規模の日本陶磁器の品ぞろえを誇る。羽織や箸、包丁といった生活用品の扱いも増やしている。ほぼ全ての商品が日本製で、本物をリーズナブルな価格で提供するというこだわりを持っている。オーナーは同店以外にも日本食レストラン2店舗を運営するスペイン人夫妻で、店舗運営は玉置氏が担当している。折からの和食ブームを追い風にフェイスブック(Facebook)やインスタグラム(Instagram)での広報に注力し、開店2年目となる2018年の売上高は前年比5割増を見込む。

## ＜売れ筋商品は茶器セット＞

店舗が富裕層の居住するサラマンカ地区に立地するため、当初は近隣の高齢層の来店が多かったが、最近マドリード州外からフェイスブックを見たという若年層が顧客の半分近くまで増えている。購入目的はギフト用が圧倒的に多く、特にクリスマス時期の売り上げが大きい。人気商品は139ユーロの茶器2点セット。青色系の皿も売れ筋だ。顧客には華道ファンも一定数おり、食器を生け花用の花器にと購入していくケースもあるという。割れ物のため、現在はマドリード市内の販売が中心だが、取り扱いが丁寧な宅配業者を採用し、スペイン全土への配送も行っている。また、常連客からの提案をきっかけに、スペインの宅配アプリ「グロボ(Glovo)」(注)を利用した配送にも取り組み始めたという。インターネット販売は行っていないが、フェイスブックに掲載した商品が注文されるケースもある。今後はネット通販サイト向けの卸などとしての販路も拡大していく予定だ。今回の商談会では、変わり小皿や手すき和紙、レターセットなどの和雑貨を調達したという。「和食器を入りに、より多様な日本製品に関心を持つ人が増えていると手応えを感じている。中国製が多い中、当店の商品に触れて、日本製に価値を見いだす顧客が増えている。」という。

(注)グロボは配達サービスのない店舗で商品購入を代行し、1時間以内に自宅配送を行うという、ニッチなeコマース市場を突いたスタートアップ。



クラシックなインテリアを生かした店内



ギフト用に最も売れている茶器2点セット

(出所:ジェトロビジネス短信 2018年11月15日 5e6a80c2c80e48ab「和食器の人気、SNSで拡散(スペイン)」)

## 外貨両替は、とよしんへ！当金庫では17通貨を取扱っています。

次のセミナー等をご案内させていただきました。

海外展開のための税制基礎セミナー	名古屋	KPMGジャパン
Mfair バンコク 2019 ものづくり商談会	タイ	REED TRADEX COMPANY LIMITED, FACTORY NETWORK ASIA (THAILAND) CO., LTD
インドネシア法の基礎および実務上の留意点	名古屋	愛知県弁護士会国際委員会、ジェトロ名古屋
外国人観光客と食の多様化への対応	名古屋	有限責任監査法人トーマツ
バングラデシュ・ビジネスセミナー	名古屋	駐日バングラデシュ大使館、名古屋市
ローカル企業とのビジネス発掘商談会inホーチミンのご案内	名古屋	信金中央金庫



国際業務部

〒471-8601

愛知県豊田市元城町1-48

電話 0565 - 36 - 1381

FAX 0565 - 36 - 1213